



いたはなじゆく

# 中山道板鼻宿のマップと案内板の設置

安中市観光ボランティアガイドの会 / 安中市 商工観光課

## 1. 安中市観光ボランティアガイドの会の取組み

安中市観光ボランティアガイドの会は、安中市商工観光課に申込みのあったガイド依頼を会員で手分けしてガイドしています。ガイドコースは新島襄ゆかりのスポット「新島襄コース」、安中城址を巡る「城址コース」、それに新しく設定した「中山道板鼻宿コース」などです。“お客さまに喜んでいただく、また安中に来ていただく”をテーマに2011年に発足し、会員数は13人です。

2013年には大河ドラマ「八重の桜」が放映され、新島襄ゆかりの地・安中が脚光を浴び多くの観光客が訪れ、ガイドの会も大忙しの日を過ごしました。会の活動はガイドにとどまらず、安中市の観光地定着化を図るため「八重の桜メモリアル展」や安中観光の起点としてスポットを紹介する「安中ふるさとさんぽ」の展示会を旧碓氷郡役所で開催しています。また、地元の画家が江戸時代の中山道を描いた「中山道上州七宿画展」を昨年開催し、好評を得ました(図1)。

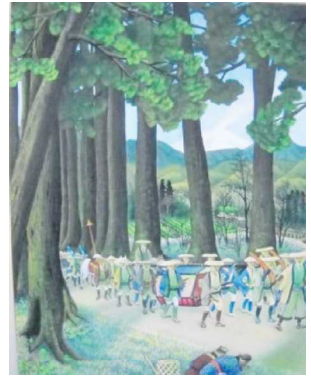


図1 中山道上州七宿画展「安中原市の杉並木」  
画：真田重吉氏

## 2. 安中市の観光資源

安中市には多くのコアとなる観光資源があります。めがね橋などの碓氷峠鉄道遺産、武家長屋や奉行所宅などの城址文化財、新島襄ゆかりの施設、秋間梅林や磯部温泉、そして中山道や鎌倉街道、参詣道路など街道にまつわる文化財など。

今回はその中でも街道に注目し、ガイドコースの1つである「中山道板鼻宿コース」をさらに観光地化するため、板鼻宿マップと案内板の設置を行いました。



図2 輦台渡しと徒歩渡し  
画：小林絵里子氏

## 3. 中山道板鼻宿のマップと案内板の設置

### (1) 中山道板鼻宿の歴史と風情

中山道板鼻宿は、江戸時代に中山道の江戸から14番目の宿場として栄え、京都までの中山道六十九次の中で塩尻宿と並ぶ最大の宿場でした。

碓氷川の川越えは徒歩渡し、輦台渡しなどにより行われました(図2)。今も渡し場跡の面影が残っています。

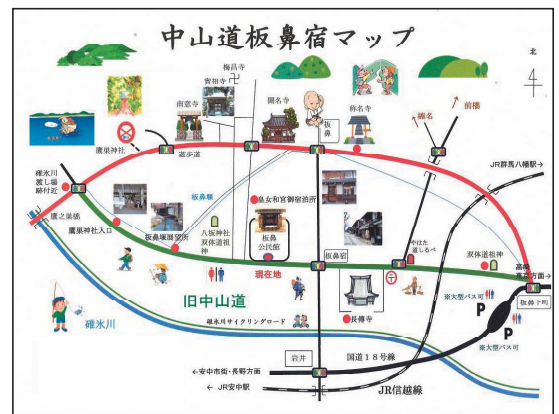
板鼻宿はすでに鎌倉時代から鎌倉街道と東山道の交わる街道の町として栄え、街道沿いには当時の面影を残す寺や市の重要文化財などが現存しています。

### (2) マップと案内板の設置

まず、板鼻宿の観光スポットを選び出し散策コースの設定を行いました。起点は皇女和宮御仮宿泊所の残る板鼻公民館で、板鼻宿全体がわかるマップを設置しました。案内板は景観、文化財、歴史的価値から9ヵ所を選びました。案内板の色、デザインは周りとの調和を考えてデザインしています。

なお、設置場所は次のとおりです。

- ①板鼻公民館(板鼻宿マップ) ②鷹巣神社(付近) ③板鼻堰用水路
- ④八坂神社双体道祖神 ⑤寛永双体道祖神 ⑥聞名寺 ⑦称名寺
- ⑧南窓寺 ⑨貫相寺 ⑩長傳寺



中山道板鼻宿マップ

## 4. 今後のまちづくりの活動

板鼻宿イベントWEEKを10月に行う予定です。地元の子どもたちも参加できる紙芝居や歴史家の講演など、地元根差したイベントになる予定です。



一遍上人ゆかりの寺 聞名寺

